

「東郷学園義務教育学校山田地区俵踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

5年生～7年生 計30人

3 日時・人数

(1) 練習の日時・場所

令和元年7月2日(火) 10月23日(水) 東郷学園義務教育学校

(2) 発表の日時・場所

令和元年11月1日(金) 東郷学園芸術祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

俵踊り(たわらおどり)

(2) 由来

五穀豊穡を祈願する踊りとして昭和初期のころから始まり踊り継がれている。戦後まもなく若い後継者に踊り継がれるようになった。昭和34年に地元で踊られたのが最後となっていたが、平成10年に地域の方々の記憶をたどりながら復活し、稽古に励んでいる。

(3) 構成等

楽が鳴り出すと、踊り子が俵を担いで入場し、途中で山型に積み上げる。踊り子の一人が俵を取って先頭の踊り子に渡す。豊年の喜びと苦労などを盛り込んだ変化の激しい踊りである。扮装は、緋の着物に赤色のお腰をのぞかせる。頭にはソロバンタオルを姉さんかぶりにし、歌に合わせて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

以前は、旧山田小学校の運動会などで子どもたちによる公演のあった時期もあったが、児童数の減少や各保存会の取組事情により、困難となってきた。現在は、保存会加入や子どもたちによる練習・取組はできていない。(男性のみ、あるいは女性のための踊りのため)各自治会・保存会においては、神社の祭典、馬頭観音祭、集落親睦会、集落精霊流し、その他依頼に応じて公演している。子どもたちもこれらの機会を通して地域の郷土芸能に触れている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、「山田地区の伝統芸能」を設定して、伝承活動の取組についても学習している。過去、学習発表会や5～7ステージ交流学習で発表した。

また、今年度は東郷学園の芸術祭で学習した児童生徒が踊りを披露し、地域興しの一役を担っている。この伝承芸能については、児童生徒もその勇壮さやすばらしさを体感している。

児童生徒には東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、大切にしていこうという心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。

7 取組の様子



【東郷学園芸術祭における発表の様子】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

- 踊っていてすごく簡単で楽しかったです。先生たちも優しく教えてくれて嬉しかったです。
- こんなにもすごい歴史があったんだなと思いました。
- 自分の地域の踊り（郷土芸能）をしっかり覚えようと思った。

【保護者】

- 大切に引き継がれている伝承芸能を見ることができてよかった。子どもたちもいい経験ができたと思う。

【教職員】

- 山田地区に継承されてきた伝統芸能を間近に見れて感動した。子どもたちもいい刺激になり、演技に感動したことと思う。

【地域・保存会】

- 各自治会・保存会の発表ができてよかった。保存会の構成が年々、高齢化してきた。子どもたち、若い人たちにも経験してほしい。山田地区の伝統芸能を受け継いでいってほしい。